

「中学生の税についての作文」 優秀作品表彰

「中学生の税についての作文」について、今年度は応募のあった92点の中から、「長野県南信県税事務所諏訪事務所長賞」「関東信越税理士会長野県支部連合会長賞」を各1名、「諏訪納税貯蓄組合連合会長賞」を2名、「富士見町長賞」を5名の方が受賞されました。

例年であれば役場で表彰式が開催されますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、表彰式は中止となりました。

【受賞作文】

● 長野県南信県税事務所 諏訪事務所長賞

「税金を払う大切さ」
富士見中学校3年 渋井 皆見

● 関東信越税理士会 長野県支部連合会長賞

「税金を払う意味」
富士見中学校3年 名取 真菜

● 諏訪納税貯蓄組合連合会長賞

「税金がたぐなぐ生命と未来」
富士見中学校3年 寺尾 友里

「税は思いやりの輪」
富士見中学校3年 矢沢 萌

● 富士見町長賞

「これから先私たちがやるべきこと」
富士見中学校3年 小林 みさと

「私たちの暮らしと税金」
富士見中学校3年 矢澤 美月

「暮らしていく中で」
富士見中学校3年 小口 愛理

「税金は社会の基盤」
富士見中学校3年 安田 智咲

「税でつくる私達の生活」
富士見中学校3年 小池 美璃亜

受賞作文から1点をご紹介します



「税金を払う大切さ」

富士見中学校3年
渋井 皆見

今日も明日も、その次の日も。私たちは、毎日楽しい学校生活を送っています。勉強をするための本。体育の授業で使うボール。当たり前のように使っている様々なものが、実は「税金」で買ったものなのです。

私はある時、物を買ったときについてくる、「税金」について不思議に思いました。「税金って、少しずつ払う割合(%)が増えてきて正直ちよつと嫌だけれど、何で払うのだから？」と。なので、お母さんに税金のしくみや、どう使われるのかを、たずねてみました。お母さんがいくつか話をしてくれた中で、一番おどろいたことは、救急車を呼ぶ時に税金が使われることです。私たちの身に何かあった時、電話でたつたの。一・九と押すだけで救急車はすぐに来てくれて、お金は、この「税金」を使っているのです。一方、税金が無かったらどうでしょう。救急車を呼ぶのに約十数万円かかる国もありました。なので、自分や人の身に何かあった時でも、少しためらってしまうことでしょうか。

私は小さい頃、肺炎で入院したことがあります。約三日間入院したのですが、実際にはかなりのお金が支払われるはずが、父に「何円かかったの？」と聞くと、「富士見町は中学生まで医療費を全額負担してくれるんだよ。」と言ったのです。本当におどろきました。しかし逆を言うとうと、医療費は本当に高いお金がかかってしまうのです。こういう時に改めて、富士見町に住んでいてよかったと思えます。私たちが病気になることも、すぐに病院へ行き、治療ができて、こうして日々健康に過ごしていられるのも、「税金」のおかげです。

この2つの経験を小さいころに味わった私は、今、税金を払うことにあまり抵抗がありません。つまり、大切なことは、子ども達にも「税の仕組み」を理解してもらうことです。なので私のこの経験を子ども達に読み、税の仕組みを知り、大切だということを一人でも多く理解してもらえればうれしいです。また、私は学校で、税に関する講習を受けました。講習を受けることで、日本の税の種類、数、具体的な数値を知り、税金が無かったら実際にどうなるのかを再現したDVDを見て、より詳しく税に興味を持つようになりました。私の文章を読んで、税に興味を持つ人が増えてほしいです。そして、自分の身の回りにあるものを見回してみてください。税金が使われているものがあることでしょうか。